

# 北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会  
 会長 門前 智  
 事務局長 齋藤 昇一  
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>  
 印刷所 (株) 有 伸 商 会  
 TEL (011)814-6211

## 平成27年度 青少年読書感想文全道コンクール 入賞者決定!!

今年も全道から、たくさんの素晴らしい作品が集まりました。第1次、第2次審査を経て、入賞者が決定しました。12月6日(日)に晴れの表彰式が行われます。入賞者の皆さん、おめでとうございます。

### 第61回 青少年読書感想文全道コンクール 第41回 北海道指定図書読書感想文コンクール

### 特別賞入賞者一覧

北海道知事賞	*心の月の *「絶望の隣は希望です!」を読んで *平和の礎を～過去から学ぶべきこと～	函館市北美原小 5年 平松 明華 留萌市留萌中 3年 市川 夏鈴 函館稜北高 1年 中島 結
北海道議会議長賞	*「メロディだいすきなわたしのピアノ」を読んで *「ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。」を読んで *言葉でもっと気持ちを伝えたい *医学研究の可能性 *マララさんが教えてくれたこと	音更町鈴蘭小 2年 宇野 仁海 室蘭市喜門岱小 3年 高澤真佑子 室蘭市高砂小 5年 田原 遥 遺愛女子中 3年 館山 紋奈 旭川東高 2年 平井 里奈
北海道教育委員会教育長賞	*クレヨンからのおねがい!を読んで ・未知の世界へのチャレンジ ・夏の庭 ・「多摩川高校合唱部」にもらった希望 ・君達と一緒に生きてく	苫小牧市苫小牧東小 2年 笠井 凜 室蘭市白鳥台小 4年 山本 寛生 函館市北美原小 6年 永井 大貴 小樽市西陵中 3年 大橋 美月 室蘭清水丘高 3年 佐々木 亜実
北海道学校図書館協会会長賞	・ぼくにもお手紙来るかな ・イランカラブテ、武四郎さん ・「夏の庭」を読んで ・「やり続けるといこと」 ・日本をもう一度見つめ直してみる	函館市日吉が丘小 2年 小林 和登 札幌市山の手小 4年 野崎 幸子 函館市深堀小 6年 大隅 守 鹿部町鹿部中 3年 高本 真生 函館白百合学園高 1年 富岡 愛
毎日新聞社賞	・「こうさぎのあいうえお」を読んで ・「つながっていく命」 ・「二十一世紀に生きる私より」二十一世紀に生きる君たちへを読んで ・夢への道～「命の響」を読んで～ ・「レインツリーの国」を読んで ・ケビンありがとう ・勇気あるマララから学んだこと ・生きるという走り方	苫小牧市錦岡小 1年 河毛 優芽 苫小牧市ウトナイ小 4年 久保 友櫻 音更町鈴蘭小 6年 宇野 天那 苫小牧市凌雲中 2年 山田 美桜 帯広南商業高 3年 藤田 美佳 室蘭市みなと小 2年 篠崎 未来 室蘭市翔陽中 1年 三上 大翔
北海道読書推進運動協議会長賞	・かけがえのない家族、かけがえのない命 ・人生の曲がり角 ・本当の友達って、何だろう ・『上機嫌の作法』を読んで ・「おとうさん大好き」 *太陽に感しゃ ・「きれいなきれいなひかり色」 ・大切な仲間 ・紙に込められた愛	登別明日中等教育 4年生 富田 理大 札幌市藤野小 5年 伊田 紗雪 遺愛女子中 1年 丸山 綾綾 室蘭市八丁平小 5年 三浦 実桜 帯広柏葉高 2年 永山 凜 室蘭市海陽小 2年 工藤 航樹 小樽市緑小 4年 寺田 智紀 札幌市幌西小 6年 丹野菜々子 岩見沢市緑中 1年 作井 梨瑚
北海道青少年育成協会会長賞	・「面倒だから、しょうを読んで」 ・出会いが繋ぐ世界 ・あいしてくれて、ありがとう ・「きっときみに届くと信じて」を読んで ・『きびしいさむさと親ペンギンのあたたかさ』 ・「先生、宿題おすれました」 ・「夢へ翔けて」を読んで ・山の魅力 ・正ぎの味方たち	函館中部高 1年 平田 紗希 岩見沢市光陵中 3年 山下ちなみ 旭川東高 1年 山崎 睦子 北斗市上磯小 3年 伊藤 ゆず 函館市深堀小 5年 秋本 萌々花 苫小牧市ウトナイ小 2年 山内 颯 室蘭市水元小 4年 三村 建成 旭川市共栄小 4年 山田 弥佳 旭川市朝日小 6年 坂田 玲 北斗市萩野小 2年 村田清之介
北海道教育文化協会賞		
はるにれ賞		
教育出版社賞		
文研出版社賞		
北海道図書教材協会賞		
図書館ネットワーク賞		
北海教育評論社賞		
光陽社賞		
学校賞	小学校の部 中学校の部 高等学校の部	函館市立北美原小学校 遺愛女子中学校 北海道旭川東高等学校

\*印は、全国コンクール応募北海道代表(自由・課題)作品です。

## 北海道知事賞

### 心の中の月

函館市立北美原小学校 5年 平松明華

「満月かなあ？」

「満月は昨日だよ。ちょっと欠けてるんじゃない？」

小さいころから夜空が好きだったわたしは、母とよく、こんな会話をしていた。今でも時々、満月かと思ったら、昨日だったりする。たった一日のさじかげんだ。だから鳴と自分は似ているのかもしれない、と思い興味を持った。

鳴はわたしと同じ五年生だ。鳴のなやみは前歯近くの歯が生えてこないこと。おまけに過剰歯が出てきて、ぬかなければならない。口の中がちぐはぐだ。わたしも一年生の時、なかなかぬけない歯があった。友達に、「絶対ぬけない」なんて言われて、ショックで腹が立ったのをおぼえている。

鳴の身近な人たちも、いろいろななやみをかかえている。しゃべらないひとみちゃん。かたうでを切断した赤羽さん。二人とも外見はふつうで、いたみがあるようには見えない。だけど欠けている所があるから満月ではない。大人になれるか不安な実咲ちゃんは、不安そうというより、怒っているように見える。

わたしの場合は友達関係で、ちぐはぐになることがある。いじめる側にも、いじめられる側にもいたことがある。小さいころのけんかに比べると、同じ「きれい」の一言でも、ずっと重くて、苦しく感じる。心が成長したせいなのかな？周りの人は、わたしの心に気づいているだろうか？そうだ。わたしと同じで、友達も思わぬことでなやんでいるかもしれない。おたがい気づいていないだけで。

いたいよ、つらいよ、と言わない方がつらいのではないかと、鳴は友達から教わった。ひとみちゃんは多分、しゃべりたいのにしゃべることができ

ない。わたしにはうまく想像できないけれど、きっと苦しいだろう。ひとみちゃんをいじめる男子たちは、その苦しさに気づいていないと思う。その苦しさは本人にしかわからない。ただ、苦しんでいる理由はわからなくても、苦しみをかかえていることがわかれば、いじめはしないだろう。

この世の中は、欠けていない人の方がめずらしいかもしれない。いつも元気な人も、具合が悪くなることもある。いつもニコニコしていても、心のどこかにもやもやがあることもある。多かったり少なかったり、まるで月の満ち欠けのようなわたしたち。でも鳴も気づいたように、欠けて見えない部分も本当はちゃんとそこにある。月が地球のかげにかくれて、見えないのと同じだ。

鳴は過剰歯をすっきりした気分であげ、思いきり空へほうりなげた。新しい歯も生えてきた。欠けた所が少し満たされた。これからもずっと、満ちたり欠けたりをくり返しだろう。きっと大きなかべにだってぶち当たる。でもそれは次のステージに進めたということで、悪いことではないはずだ。わたしは強く思う。不完全なままでもいい。なやんだ分だけ成長して、形を変えた月は、きっと美しい。



榎崎 茜 著

『満月のさじかげん』

(講談社)

## 北海道知事賞

### 「絶望の隣は希望です！」を読んで

留萌市立留萌中学校 3年 市川夏鈴

一なんのために 生まれて なにをして 生きるのか  
こたえられないなんて そんなのは いやだー

これはテレビや絵本などでおなじみのアンパンマンの  
テーマソングの一部である。アンパンマンの生みの親、  
やなせたかしさんが自分自身に問いかけてきた、生きて  
行くうえでの命題といえるものだそうだ。

私は幼い頃体が弱く入院ばかりしていたらしい。苦痛  
な病院生活を救ってくれたのが、アンパンマンだったそ  
うだ。病院のベッドで絶えず泣きじゃくっていた私を何  
とかなだめようと母は抱っこアンパンマンで乗り切っ  
たと言う。それからアンパンマンは幼い私の大好きなヒー  
ローになった。この本はやなせさんの人生そのものが丸  
ごとつまった愛と勇気のメッセージである。その複雑さ  
に涙するところもあったが、ことわざや四字熟語がふん  
だんに盛り込まれ、ユニークで楽しく、心が温かく、強  
くなれる素敵な本である。

やなせさんの長い長い人生。複雑な家庭環境や学生時  
代。1919年生まれのは兵役の経験までである。プロになっ  
てからも失意と絶望の連続で、七十歳を迎えようとする  
時アンパンマンがヒット作となる。アンパンマンの中に  
込められた真の正義の意味、それは、それまでの彼の生  
きてきた証だった。一言では言い表せない程、深く、濃  
いものだった。今や日本中の子供達は皆アンパンマンの  
虜である。あの東日本大震災の現場でも、避難所の子供  
達はアンパンマンマーチで笑顔になり、大人達は子供達  
の笑顔で元気になったそうだ。アンパンマンにもやなせ  
さんにもすごい力があると改めて感じた。

私は日々吹奏楽部で一生懸命頑張っている。しかし、  
中三なので、他の部活の仲間達は、十一月まで続く吹奏  
楽部とは違い、もう引退し自分の決めた道に向かって進  
み始めていると思う。しかし私はというと、部活に励む  
一方、中三としての立場を考えられないまま宙ぶらりん  
の日々を過ごしているのだ。本当にやりたい事は何なの  
か。本当にやれるのか。将来に繋がるのか。目の前の重  
い現実を追われ余裕のない時間をただ過ごしている気が  
して焦りを感じるのだ。取り残されたような気持ちでいっ  
ぱいになる時がある。私が歩んできた十五年なんてやな  
せさんの長い人生にはとうてい届かないちっぽけなもの  
だが、彼が失意と絶望を繰り返していた時もこんなふう  
に感じたのだらうと思った。

しかし、彼は、心が元気になり救われる言葉をいくつ  
も届けてくれた。「人生は喜ばせごっこ。僕達が生きて  
いるのは人を喜ばせるためだ」確かに、どんな人も誰か

が喜ぶ顔を見ていると嬉しくなる。みんなを喜ばせると  
自分も嬉しくなる。当たり前的事だが、ずっと忘れてい  
た気がする。やなせさんは絵本を描いて子供達を喜ばせ  
ている。この本も多くの人を喜ばせている。私は日々人  
を喜ばせているだろうか。

私は五月に祖母を失くした。もの心がついてから母の  
ようにいつも傍にいてくれた祖母。母にとっては自分の  
母親だ。私でさえもあんなに悲しかったのだから母の悲  
しみはとてつもなく深いものだったに違いない。この本  
には元気になれる事ばかりではなく強くなれる事も書か  
れている。それは、涙を追い出す詩のほずなのに、読む  
と何故か泣けてくる。でもそこから不思議と強くなれる  
のだ。私はこれを母にも読んでもらいたい。悲しんだ後、  
強い心も涙の中から生み出して欲しいから。

また、やなせさんは、「人生は満員電車。我慢して乗っ  
ているといつの間にか席が空いて座れるが、途中で降り  
たらそれでおしまい。」と言っている。まさに“継続は  
力なり”だ。私も受験という満員電車に乗り込もうとし  
ている。なかなか思い通りにいかなくても諦めず途中下  
車せず、絶えず探し続けよう。今私がやるべき事はきっ  
とこれだと思った。

一絶望の隣に だれかが そっと腰かけた 絶望は  
となりのひとにきいた 「あなたはいったい誰ですか」  
となりのひとはほほえんだ 「私の名前は 希望です」—  
これは、代表作に恵まれない時代、絶望という深い闇  
の中にいたやなせさんが自分を勇気づけるために作った  
詩である。私は“目からうろこが落ちる”とはこれなん  
だと思った。正体不明のもやもやしたものがすうっと抜  
け落ちた。多忙な毎日にかこつけて自分にストップを  
かけていた私は、色々な理由を作り逃げ場を探していたの  
だ。しかしこの詩を読んで、今は焦らず少しずつ読み続  
けようと思った。思うように物事が進まなくても、とに  
かく一歩一歩積み上げていきたい。それがたとえ失敗に  
終わったとしても、絶望のとなりには希望がある。いつ  
かきっと希望は私に微笑んでくれる。だから私は突き進  
むことをやめない。

それゆけ、私。未来へ向かって。



やなせたかし 著  
『絶望の隣は希望です！』  
(小学館)

## 北海道知事賞

### 平和の礎を～過去から学ぶべきこと～

北海道函館稜北高等学校 1年 中 島 結

「どうして知らなくちゃいけないの？わたしとは、関係ないじゃない。」

エリコの言葉は、そのまま私の心の声だった。重い鉛の塊が覆い被さってくるような息苦しさ、行間から伝わる暗く湿った空気を全身に感じた私は、そこから先のページをめくることができなくなった。

「戦争時の事実も書かれているから、いろいろ考えてみたら？」

と、母から渡された『屋根裏部屋の秘密』というこの本を読み始めた私だったが、あまりにも酷く痛ましい戦争という歴史、今まで知らなかった重い罪という現実を、直視することが恐ろしくなった。

この物語の主人公は、中学校のゆう子と、大学生の直樹という二人の兄妹。夏休みの入り、ほとこのエリコから、信州にある祖父の山荘に行こうと誘われる。しかし、それは単なる避暑のためではなく、エリコの祖父が亡くなる直前に言った

「おまえにまかせろ。若い世代に……。」

という謎めいた遺言の真意を確かめようとするものだった。今まで立ち入ることを固く禁じられていた鍵のかけられた屋根裏部屋。そこで、ゆう子とエリコが見つけたのは、ダンボールに入れられた古い膨大な書類。遅れて到着した直樹によって、その書類が、日中戦争時に日本軍七三一部隊が細菌兵器研究のために行った生体実験の記録であることが明らかになる。

この本を読むまで、七三一部隊という存在すら、私は知らなかった。その部隊の行った生体実験の数々は、とても衝撃的で、文面からは恐怖と死の臭いを感じた。「私とは関係ないじゃない」と声を震わせたエリコと、同じ想いが浮かんでくる。当事者であったエリコの祖父達がひた隠しにしてきた事実。それを突然知らされて「まかせろ」と言われても、どうしてよいかわからないという気持ちだけでなく、当事者達自らが精算しなかったことへの憤りさえ感じた。怒り、戸惑い、不安、無力さ、……。そんな想いが頭と心の中を駆け巡り、ページをめくる手が止まったまま、広島、長崎原爆の日、そして終戦の日を迎えていた。

毎日テレビで流れる、戦争で被害を受けた人々の証言や平和への想い、当時の写真や映像など資料の数々……。漠然と見ていた私に、母が声をかけてきた。

「二年前と今では、何か感じることは変わった？」と。

私は、はっとした。

二年前の八月九日、私は、七飯町の平和大使として、

長崎の原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列していた。汗が滝のように流れてくる暑さの中、市長の平和宣言や、被爆者代表による平和への誓いを聞き、戦争の悲惨さを知ったような気になっていた。命を落とした人々、心と身体に深い傷を負い未だ苦しんでいる人々、家族や大切な人を失った多くの人々、その悲しみを理解したような気持ちになっていた。けれどもそれは、一方的に被害者側の立場を想像していただけて、本当の意味での『戦争』というものを考えていなかったのではないか？今は、加害者でもあったという側面を知り、受け入れることが恐いと感じているのではないか？

そう思った私は、改めて本を手に取り、残っていたページを読み進めた。知ることは恐い。けれど、知らない・関係ないと目を背けることは、愚行といえるのではないだろうか？という声が、心の内から聞こえてくるような気がした。

「戦争ってのは、狂気なんです。人間がくるうんです。」

エリコの祖父とともに、七三一部隊にいた忠男さんの言葉が胸に突き刺さる。一方的な被害者とか加害者などという言葉では片付けられるものではない。巻き込まれた全ての日常を破壊し、人間の肉体のみならず心さえもボロボロにしてしまう戦争。失うものが多いこの行為の代償もなく、その上、人々は何を負わされてきたのか。その深く暗い闇のような過去と向き合うことが、エリコの祖父の残した「まかせろ」の意味なのではないだろうか。

戦後七十年目を迎え、私たちはもちろん、私達の親や祖父母でさえも戦争を知らない世代となってきた今日、確かに過去の戦争の直接的な責任は私達にはないだろう。しかし、戦争体験者から繋がる世代として、全く知らない・関係ないと言い切れることもできない。過去から学んだことで、平和への礎を築き上げてゆくこと。これこそが、エリコの祖父が若い世代に託したかったことだと強く感じた。

もう私は目をそらさない。物事をさまざまな側面からとらえる目と耳を、痛みや苦しみを共感できる心を、未来を切り開く知識と決断力を育てていこう。世界各地では今も争いが絶えないが、「戦争」という言葉が不要な日が来ることを信じて、私達は歩いていくのだ。



松谷みよ子 著  
『屋根裏部屋の秘密』  
(偕成社)

## 北海道議会議長賞

### 「メロディだいすきなわたしのピアノ」を読んで

わたしのうちにもピアノがあります。色はまっ赤で、とてもかわいいピアノです。

ピアノがうちにきた時は、わたしはまだピアノをなっていないかったけど、お姉ちゃんはそのピアノをひいているのを見て、「かっこいいなあ。わたしもピアノをひけるようになりたいな。」と思って、お父さんとお母さんにたのんで、ピアノをならいはじめました。

ピアノはすきだし、うまくひけるとたのしいけど、だんだんむずかしくなるし、ほかにやらなきゃいけないこともあるので、レッスンの前日だけひいたりすることもあります。お母さんに「れんしゅうしたくないなら、ピアノやめてもいいんだよ!」とおこられて、あわててれんしゅうすることもあります。

でも、この本を読んで、わたしのピアノもうれしかったりかなしかったりがんばったりしてるのかなと思ったら、「わたしもちゃんと毎日ひこう!」という気持ちになりました。

この本に出てくるピアノは、女の子にメロディという名前をつけてもらって、毎日ちゃんとひいてもらって、きつとずっとしあわせだったと思

音更町立鈴蘭小学校 2年 宇野 仁海

ます。だから、女の子にだんだんひいてもらえなくなって、とうとうすてられるのかと思った時に、メロディはつらくて、ねむりについてしまったんだと思います。

わたしは、メロディが今までさみしくてもがまんしていたのにすてられてしまったことが、かわいそうでたまりませんでした。そして、わたしのピアノやおもちゃや本や文ぼうぐや色々なものも、もしかしたらメロディみたいな気持ちになっていたかもしれないと思って、とてもかなしくなりました。もっとものを大切にしようと思いました。

でも、メロディはすてられたわけではなくて、工場でピカピカになって、大きくなった女の子の子どもにひいてもらえることになったので、本当によかったです。

わたしも大人になっても、このまっ赤なピアノとずっとずっといっしょにいたいです。



くすのき しげのり 作  
『メロディだいすきな  
わたしのピアノ』  
(ヤマハミュージックメディア)



## 総 評

審査委員長 栗原 靖 (札幌市立八軒小学校校長)

今年度の第61回青少年読書感想文全道コンクール、第41回北海道指定図書読書感想文コンクールには、全道各地から609点もの力作が寄せられました。各支部で厳正に審査され選び抜かれた作品が揃い、指導に当たられた道内の先生方の読書教育への情熱と子どもたちを支えてくださった保護者の皆様の熱意が作品を通して伝わってきました。今年度の最終審査会におきましても、総勢25名の審査委員が5部門に分かれて、時間をかけ、熱心な話し合いを行いつつ、作品に込められた子どもたちの思いを十分に受け止めながら、厳正に審査を進めて参りました。

小学校低学年の作品には、子どもらしい読み取りをし、自分を振り返り、自分の生き方に取り入れていこうとする素直さを感じました。中学年の作品には、自分の心に響いたことを一つのテーマとして書いた作品が多く、本の内容と自分の生き方を重ね合わせ自分のこととして考えや思いを広げている表現がどの作品にも見られました。高学年の作品には、登場人物との出会いから、自分や自分の考え方の変容について日常生活や経験と結び付け、豊かな言葉と巧みな表現で、自分の目標や進み方を明確に表した作品が多く見られました。中学生の作品には、文章構成を含めて表現に工夫が見られる個性的な作品も見られ、一冊の本に出会えた喜びや、それから受けた感動が深く書かれた作品が多く見られました。高等学校の作品には、新鮮な筆致で感動や思いを経験と結び付けて書かれたものが多く、戦後70年の節目の年ということもあり、平和の尊さに対して真摯に向き合っている感想文が多く見られました。

読書感想文を書くことは、読みながら著者または自分自身と対話し、疑問・葛藤・批判など、思考をしながら表現する能動的な活動であり、「生きる力」を付ける取組と言えます。今後もますます多くの児童生徒の皆さんが、豊かな読書環境の中で参加し続けてくれることを願ってやみません。

**北海道議会議長賞****「ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。」を読んで**

室蘭市立喜門岱小学校 3年 高澤 真佑子

この本は、わたしが二年生の時に、お母さんに買ってもらいました。わたしは、この本を何回も読みました。読めば読むほど、この本にきょうみを持つようになりました。しかし、読むたびに、小鳥がわたしの心をつつつくような思いがありました。それは、「外国では、少女はなぜ学校へ行ったらだめなんだろう。」「外国の少女でも学校へ行くけんりがあるんじゃないか。」「どうすればみんな学校へ行けるようになるんだろう。」ということでした。

「学校へ行くな、行ったらころす。」と大人たちに言われたマララさん。それでも勉強をすることをのぞんだため、ぶそうグループの男にじゅうで頭をうたれました。うたれた時のきょうふ、弱さ、絶ぼうが、強さ、力、そして勇気にかわり、自分のためではないけれど、声をあげる大切さに改めて気づかされました。学校に行きたいというゆめをもちつづけたという強さは、どこから来るのだろうかと思いました。わたしだったら、学校へ行きたいというゆめよりも、またじゅうでうたれるというきょうふの方が大きくてあきらめてしまうと思います。

重体になったマララさんの元に、世界中のおい者さんがかけつけ、一生けんめい助けてくれました。マララさんは、その人びとのためにも、勇気をもって声をあげようと、そして、すべての子どもに教いくをというゆめをおいつづけています。今も学びつづけ行動しているマララさんのすがたを見て、とてもはげまされました。

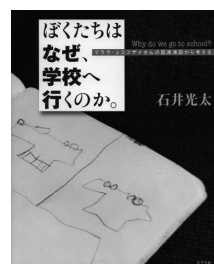
わたしには、勉強を教えてくれる先生がいます。

何さつもの教科書、ふで箱には何本ものえんぴつを持っています。学校に行くこともあたり前だと思っていました。でも、世界では学校へ行きたくても、行くことのできない子どもが多くいることを知りました。今の自分の生活があたり前ではなく、とてもめぐまれていることに気づきました。

わたしのゆめは、やくざいしになることです。三年生から始まった理科の勉強が一番すきだし、つらいかん者さんにやさしくせっしてあげ、早くよくなってほしいからです。

作者の石井さんは、「自分の言葉で考え、自分の言葉で気持ちをつたえることを少しずつでいいから、ためしてみしてほしい。」と書いています。人前で話をするのが苦手です。自分の気持ちをつたえることがあまりできないわたしにとって、とても大切なことだと思います。

わたしの学校では、行事や学習の終わりに気づいたことや、感想を発表する時間があります。いつも何か思っていることはあるのに、上手く言葉にできず、なかなか発言できずにいます。これからは少しずつ、短くてもいいから、自分の言葉で、きちんとつたえられるように、しっかり学んでいきます。そして、しょう来はやくざいしとして、たくさんのかん者さんにわたしの言葉ととどけたいです。

マララ・ユスフザイ 述  
石井光太 文『ぼくたちはなぜ、  
学校へ行くのか。』  
(ポプラ社)

第41回 平成27年度 青少年読書感想文全道コンクール

# 北海道指定図書

北海道の先生がおすすめする本

## 小学校低学年の部



**クレヨンからのおねがい!**  
ドリュー・デウォルト/文  
オリヴァー・ジェファース/絵 木坂涼/訳  
ほるぷ出版 定価1,500円+税



**ええことするのは、ええもんや**  
くすのさしげのり/作 福田岩緒/絵  
えほんの杜 定価1,200円+税



**ゆきがくれたおくりもの**  
リチャード・カーティス/文  
レベッカ・コップ/絵  
ふしみさを/訳  
ポプラ社 定価1,480円+税

## 小学校中学年の部



**北加伊道**  
松浦武四郎のエゾ地探検  
関屋敏隆/文・型染版画  
ポプラ社 定価1,600円+税



**先生、しゅくだい わすれました**  
山本悦子/作 佐藤真紀子/絵  
童心社 定価1,100円+税



**ぼくのニセモノをつくるには**  
ヨシタケシンスケ/作  
プロンズ新社 定価1,400円+税

## 小学校高学年の部



**槍ヶ岳山頂**  
川端誠/作  
BL出版 定価1,600円+税



**ネルソン・マンデラ**  
カティール・ネルソン/作・絵  
さくまゆみこ/訳  
鈴木出版 定価1,900円+税



**ロード**  
キャンピングカーは北へ  
山口理/作 佐藤真紀子/絵  
文研出版 定価1,300円+税

## 中学生の部



**時速47メートルの疾走**  
吉野万理子/著  
講談社 定価1,400円+税



**ユキとヨンホ**  
白磁にみせられて  
中川なをみ/作  
船橋全二/絵  
新日本出版社 定価1,500円+税

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。  
詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

●ホームページ

北海道学校図書館協会

検索

## 北海道の本を読みましょう!

第61回 青少年読書感想文全道コンクール / 第41回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社 ■後援/北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会 ■選定協力/北海道読書推進運動協議会

## 優 秀 賞

## 小学校（低学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「なつのかいじゅう」	林 凌太郎	函館市北美原小	1年
・ちょっとだけ	尾 形 花 音	小平町小平小	1年
・「せいちゃん」をよんで	下 山 寛之晋	苫小牧市苫小牧東小	1年
・前むきなことって大事だね	長谷川 このは	小樽市花園小	2年
・「ライオンになるおかあさん」	岡 野 衣 吹	室蘭市八丁平小	1年
・「はこぶ」今とむかし	佐 藤 綾 花	函館市東山小	2年
・あしたあさってしあさってを読んで	鈴 木 隆 正	室蘭市旭ヶ丘小	2年
・「クレヨンからのおねがい！」を読んで	菊 地 朋 輝	音更町東士幌小	2年
・「ゆきがくれたおくりもの」を読んで	山 田 笑莉奈	音更町東士幌小	2年
・「クレヨンからのおねがい！」をよんで	木 村 翠 有	北斗市上磯小	1年
・クレヨンいっぱいつかいたい	近 藤 一 羽	増毛町舎熊小	1年
・ええことするのは、ええもんや！を読んで	石 川 祇 臣	室蘭市八丁平小	2年

## 小学校（中学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・何でもできる!!	山 口 美 咲	室蘭市喜門岱小	3年
・「希望の牧場」を読んで	押 川 心	小樽市緑小	3年
・「としょかんライオン」を読んで	松 永 凜汰朗	北斗市浜分小	4年
・「霧のむこうのふしぎな町」を読んで	佐 藤 成 龍	小樽市緑小	4年
・「平和を願う気持ちを忘れない」	井 川 若 菜	函館市中の沢小	4年
・「かぐやのかご」を読んで	及 川 叶 愛	室蘭市八丁平小	3年
・お話きかせてクリストフ	河 邊 梨 花	小樽市緑小	4年
・「お話きかせてクリストフ」を読んで	清 水 凜々愛	森町さわら小	4年
・わたしのニセモノはつくれぬ	細 谷 琴 音	函館市深堀小	3年
・「ぼくのニセモノをつくるには」を読んで	大 隅 透	函館市深堀小	4年
・「先生、しゅくだいわすれました」を読んで	小 川 弓 來	小樽市緑小	4年
・「先生、しゅくだいわすれました」を読んで	加 藤 優 和	苫小牧市若草小	3年

## 小学校（高学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「津波てんでんこ」から学んだこと	長谷川 斐 生	帯広市つつじが丘小	5年
・家族そろって	愛 場 崇 功	森町濁川小	6年
・真心をもって	鉢 呂 佳 菜	森町濁川小	5年
・シゲコ！ヒロシマから海をわたって	今 井 ゆたか	函館市深堀小	6年
・「ぼくの、ひかり色の絵の具」を読んで	鈴 木 純 正	室蘭市旭ヶ丘小	5年
・「ぼくの、ひかり色の絵の具」を読んで	脇 坂 亜 紀	室蘭市みなと小	5年
・「微生物と共に」	秋 江 峻	函館市港小	6年
・「レジェンド！」を読んで	伏 見 優 花	室蘭市知利別小	5年
・人種差別のつらさを知って	高 村 菜 央	室蘭市八丁平小	5年
・私のロード	麻 里 笑 花	森町駒ヶ岳小	6年
・槍ヶ岳山頂を読んで	神 野 晴 音	室蘭市水元小	5年
・「ネルソン・マンデラ」を読んで	小 川 結 稀	函館市北美原小	5年



# 優 秀 賞

## 中学校の部 (15名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「チーム」で未来を	小 林 拓 暉	登別明日中等教育	1回生
・「MOMENT」から見えた生き方	山 崎 朝 陽	小樽市潮見台中	3年
・届ける笑顔	樽 見 楓 南	小樽市西陵中	2年
・平和への願い	青 柳 凜 夏	室蘭市桜蘭中	1年
・さやかちゃんへ	岩 多 咲 香	北斗市大野中	2年
・「人の温かさ」	北 垣 玲 音	岩見沢市緑中	3年
・世界が変わった日－セヴァンが伝えたかったこと－	佐 藤 那留采	岩見沢市光陵中	1年
・想い	大 山 芽 依	教育大附属函館中	2年
・「夏の朝」を読んで	小 林 みなみ	札幌市向陵中	3年
・「ブロード街の12日間」を読んで	秋 葉 紗 世	留萌市港南中	3年
・大切な人	松 尾 里 咲	岩見沢市光陵中	1年
・「ブロード街の12日間」を読んで	鳴 海 清 花	函館市桔梗中	1年
・時速47メートルの疾走を読んで	松 原 華 子	森町森中	3年
・本当の友達	盛 田 小 想	鹿部町鹿部中	2年
・時速47メートルの疾走を読んで	富 田 夏 樹	旭川市中央中	1年

## 高等学校の部 (15名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・平和への祈り	田 中 花 歩	聖心女子学院高	3年
・一つの麦	竹 内 杏	旭川東高	1年
・光ある世界へ	松 井 晶 子	旭川東高	2年
・闘えばいい	和 泉 友依子	旭川東高	2年
・命と闘い続けるために	佐々木 美奈実	清水高	1年
・愛情を受けて育つということ	及 川 僚 真	帯広三条高	3年
・「生と死の繋がり」	中 村 瑞 稀	滝川西高	2年
・「未来へ」	杉 谷 優 佳	函館白百合学園高	1年
・「おおかみこどもの雨と雪」を読んで	岸 本 佳奈子	遺愛女子高	1年
・紙が教えてくれたこと	松ヶ平 詩 織	士別翔雲高	3年
・夢にカケル	四ッ辻 麻 衣	士別翔雲高	3年
・「僕の明日を照らして」を読んで	児 玉 萌	帯広柏葉高	2年
・“家族”になった日	下 屋 聖 奈	室蘭清水丘高	3年
・マララ・ユスフザイ	大 石 歩	函館白百合学園高	1年
・マララ～教育のために立ち上がり、世界を変えた少女～を読んで	上 山 佑季奈	帯広柏葉高	1年

### ◆感想文集『北海道の読書』（平成27年度版）の普及を 第61回青少年読書感想文全道コンクール入賞作品集

○小学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 入賞者全作品を掲載

○中学校・高等学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 入賞者全作品を掲載

【申し込み・問い合わせ先】

北海道学校図書館協会HP > 読書感想文コンクール > 北海道の読書 > 学校宛・個人  
 札幌市立西岡南小学校 教諭 佐藤秀則 FAX 011-582-1590

# 優良賞

## 小学校(低学年)の部

雄武町共栄小	2年	石村 芽依
岩見沢市栗沢小	2年	平田 愛梨
岩見沢市栗沢小	2年	加藤 郁美
北斗市上磯小	2年	中堀 蓮
北斗市上磯小	2年	渡辺 倅明
函館市高丘小	2年	工藤梓恵乃
室蘭市高砂小	2年	長井 悠
苫小牧市苫小牧東小	2年	瀬戸琳太郎
室蘭市八丁平小	2年	岡垣 琉姫
苫小牧市苫小牧東小	2年	齋藤 明莉
室蘭市旭ヶ丘小	2年	成川 心満
岩見沢市栗沢小	1年	木澤 優空
室蘭市八丁平小	2年	安田 智香
旭川市永山西小	2年	松本 雛野
函館市北美原小	1年	蠣崎 らな
北斗市萩野小	2年	鈴木 万瑠
長沼町西長沼小	2年	中川 真緒
教育大附属函館小	1年	吉田 昂良
小樽市銭函小	2年	佐藤 海杜
苫小牧市苫小牧東小	2年	服部 虹太

小樽市緑小	3年	小林 花歩
室蘭市本室蘭小	3年	高木 悠矢
月形町月形小	4年	加藤 ゆら
旭川市陵雲小	4年	工藤 侑和
室蘭市旭ヶ丘小	4年	伊藤晋之介
岩見沢市栗沢小	3年	成田 心
北斗市萩野小	3年	村田蔵之介
知内町涌元小	4年	成澤 繪

苫小牧市明倫中	2年	山根 優輝
小樽市松ヶ枝中	2年	海老名美羽
室蘭市翔陽中	2年	鈴木 結理
遺愛女子中	2年	佐野 有紗
函館ラ・サール中	2年	佐藤宗二郎
函館白百合学園中	3年	中村 理加
八雲町野田生中	2年	渡部 真緒
鹿部町鹿部中	2年	山口ひより
北斗市石別中	2年	波間あおい
森町森中	2年	三浦 琴
岩見沢市緑中	1年	松田 百花
岩見沢市清園中	2年	島 愛花
岩見沢市光陵中	2年	飯塚 純矢
岩見沢市光陵中	2年	山本 亜優
聖心女子学園中	3年	瀧田 小麦
藤女子中	2年	金古 桃香
滝川市明苑中	3年	田中 咲良
函館白百合学園中	3年	綱藤 友香
室蘭校蘭中	1年	添田 晃生
遺愛女子中	2年	二階堂ゆうな
滝川明苑中	3年	前川紗希奈

## 小学校(高学年)の部

札幌市手稲鉄北小	6年	萩原 奈々
滝川市東小	6年	菊池 花瑠
室蘭市大沢小	6年	二瓶 諒
小樽市緑小	5年	小林 莉歩
室蘭市旭ヶ丘小	6年	阿部 心美
函館市深堀小	6年	菊地 叶恵
室蘭市大沢小	6年	成田 梨菜
北斗市浜分小	6年	小原 礼
小樽市花園小	5年	品川 咲季
士別市士別小	5年	中川真優子
室蘭市知利別小	5年	三橋萌亜奈
網走市南小	5年	田中 飛鳥
士別市士別南小	5年	藤田 千草
占冠村トマム小	6年	佐藤 初香
森町濁川小	5年	伊藤 美秋
小樽市花園小	5年	佐々木未来
函館市金堀小	5年	弘平谷菜菜子
岩見沢市日の出小	6年	磯田 颯
函館市深堀小	6年	漆畑 元基
長沼町西長沼小	6年	佐藤ひとみ

## 高等学校の部

札幌光星高	3年	伊澤 佑佳
函館白百合学園高	1年	長内麻夕加
岩見沢東高	1年	明石 優花
旭川東高	2年	浦 寿珠
札幌旭丘高	1年	平野 公暉
旭川西高	1年	廣瀬 望乃
旭川藤女子高	1年	台丸谷彩愛
旭川西高	3年	小野田亜実
岩見沢東高	1年	鈴木 真子
岩見沢東高	1年	谷田 緑
帯広緑陽高	3年	佐藤 那月
函館中部高	1年	後藤 夏純

## 中学校の部

小平町小平中	3年	新留 沙彩
帯広市翔陽中	3年	宮崎 真菜
苫小牧市明倫中	2年	山田 晏菜

## 第38回北海道子どもの本のつどい～上士幌大会の報告

大会実行委員長 石川 晋  
(上士幌町立上士幌中学校 教諭)

「北海道子どもの本のつどい上士幌大会」は、2015年8月1日(土)2日(日)、私が現在勤務する上士幌町で開催されました。人口5000人を切る都市での単独開催は多分初めてです。

初日は、基調講演+鼎談。北海道で一番新しくモダンな施設である認定こども園が会場です。メイン講師は、あべ弘士さん。講演の後、あべ弘士さんに加えて、地元の若手保育士である鎌田健司さんと私とで鼎談。その後、参加者は、町内の奥座敷「ぬかびら源泉郷」へ向かい、旧士幌線の遺構であるタウシュベツ橋梁を見学したり、気球に乗ったり。夜は、懇親会でした。



二日目は、分科会。主会場は、第三分科会と第七分科会を除き、私が勤務する上士幌町立上士幌中学校。10:00~14:00まで昼食休憩を含めて濃密な時間である。用意した分科会は「創作」「性教育」「読み聞かせ」「あべ弘士さんと語ろう」「作品鑑賞」「公共図書館」「写真絵本づくり」の七分科会。中でも、「性教育」は、本町のボランティアグループと町の保健師がタッグを組んで展開する性教育の内容をご案内するもので、これまでにはない企画でした。また、「読み聞かせ」では、認定こども園を会場に、「読み聞かせ会、お話会、語り、人形劇など大集合」と題して、各地の読み聞かせやお話会、語りや人形劇チームのみなさんが時間いっぱい次々とお得意の演目を披露し、大盛況でした。

## 第57回北海道図書館大会 第3分科会「北海道からの発信『逆境が生む創造』」

2015. 6. 25 (木)

司会 本間 由美(札幌市立登寒中学校 司書教諭)

記録 浅村麻姫子(札幌聖心女子学院中学校・高等学校 非常勤講師)

講演講師：有限会社エアードライブ 代表取締役 田中 宏明 氏

### 講演概要

- 『義男の空』を出版してすぐ、北海道学校図書館協会の推薦をもらった。その縁で十勝大会に呼ばれ、今日の発表につながった。  
＜『義男の空』の発刊までのあらすじ＞
- 高橋義男医師。現在66歳。自分の子どもの命の恩人。その時自分はサラリーマンだった。生後1か月の時に、二男が水頭症になった。脳の中に髄液が過剰に溜まってしまう。医師を探したら3人の人が同じ医師を紹介してくれた。それが高橋医師だった。ゴッドハンドと言われている人だよ。
- 高橋医師の診察室は、命に満ち溢れていた。元気な子どもの写真、生命力あふれる習字。うちの子も元気になりそうだった。今、二男は奇跡的に頭の水が消え、元気に中学校に行っている。介護を覚悟したので、あれ、体が空いたぞ！と思った。ボランティアにも参加した。高橋先生につながる子どもたちと親1000人のキャンプ「いけまぜ」。毎年違うところに行く。でも、これは自分でなくてもできると思った。それで『義男の空』をつくった。
- T V「奇跡体験アンビリバーブル」の映像の紹介。タイトルは4000人の命を背負う医師。  
＜『義男の空』で伝えたい思い＞
- 過去編、現代編が並行している。義男先生の歴史と様々な家族を描く。家族を描きたい。患者から見た義男医師。次世代の心ある医師が生まれてほしい。道内の小中学校、高校などに寄贈、被災地に寄贈、文化庁メディア芸術祭推薦作品にもなった。でも売上が上がらなくて経営は大変。韓国に義男の空を売り込み、半年後に新聞社が発行することになり、ハンダ版版ができた。
- 人のためにやろうと思ったことが、自分のためになったりいろいろな波及効果があったと感じている。
- 「みんなおなじ人間だべや。」が、『義男の空』のテーマ。人は見えない不思議な縁でつながっているもの。最初まったくの他人が教えてくれたのは、集団で生きるためにみんながそれぞれの可能性を伸ばせること。自分が生徒の頃はマンガも『はだしのゲン』しかなかった。図書館の本はどんどん増えていると聞いている。今後ともこの一度頂いた良縁をよろしく願います。



## 高文連図書専門部 第37回全道高等学校図書研究大会(上川大会)報告

10月1日(木)～2日(金)、“北都”旭川にて、107校470名の生徒に教職員140名、計610名の参加で今年度の全道大会が開催されました。

メインテーマ「図書館から広がる人の『輪』 ～地域の文化と歴史に根ざして～」のもと11の分科会と全体講演を中心に、全道各地の図書局・図書委員の活発な研修・交流がなされました。

分科会は例年積み重ねてきたスタンダードな内容に加えて、今年度は「聞き取り取材から書くルポルタージュ ～道民の戦争体験を聞く～」や、「アイヌの歴史と文化に出会う」「旭川文学散歩 ～三浦綾子記念文学館・井上靖記念館・北鎮記念館訪問～」と、時代や地域性を生かした内容が設定され、テーマに即した充実した内容となりました。

もう1点特筆は、昨年度から開催された「図書館活動グランプリ」(通称「T1-グランプリ」)での生徒の活動です。

今年度の運営は、規定から2014年グランプリ校の室蘭栄高校が司会から表彰式まで全てを運営しました。工夫された映像に、ユニークな語り口の進行は大いに会場を盛り上げました。

今年度「グランプリ」はユニークな発表で笑いを誘った滝川西高校が生徒投票最高得点で受賞。準グランプリには図書館活動の「Live in Lib」を完璧に再現した札幌南高校と、「手」にこだわった発表の札幌南陵高校が入賞しました。その他惜しくも選外でしたが、図書館活動を列車に喩えた苫小牧南高校や審査員特別賞を受賞した岩見沢農業高校など、予選突破の10校はいずれも能動的で完成度の高い発表でした。

その他、生徒向けと指導者向けに二つの講演会が行われました。

指導者向けの「図書館担当者研」では、図書館情報大学名誉教授 竹内 愨 先生から「学校図書館を説明するために」との演題で、「自分でものを考える場」としてのお話から「リファレンス(知識・情報を検索する力)は読み・書き・計算に続く4番目の知的作業で、それを育むのが学校司書」や「学校図書館は生徒を『一人の人間』と捉え、新しい面を育てる貴重な場」との示唆に富むお話を頂きました。

生徒目向けには、「本 ーさわれることば」との演題で、文化人類学者 船曳 建夫 氏より講演を頂きました。

「データとしてある電子書籍の文字と、『言語』として紙に書かれた文字は性質的に明らかに異なる」との内容からは、学校図書館で日常的に書籍と関わる図書局員に勇気を頂きました。

大会の最後には「図書館報コンクール」の表彰が行われました。

参加41校の中から、最優秀校として札幌南高校、優秀校として、帯広柏葉高校・札幌白石高校・札幌月寒高校の3校。その他、優良校5校、奨励賞11校の合計が20校が受賞しました。

審査講評では、新聞局で全国審査委員長も務める武田克伸先生から「館報の全ての機能に込めている札幌南高の内容は全国屈指のレベル」との講評を頂き、全道各地で生徒達が永年積み重ねてきた館報での活動が高く評価され、北海道の底力が示された形になりました。

この他にも「館報交流会」なども継続的に行われており、年々生徒の主体的活動の場が広がってきているという実感の持てる大会となりました。

(文責 高文連図書専門部委員長 熊木 啓二)



「T1-グランプリ2015」

## 学校図書館情報

### ◆第48回北海道学校図書館研修講座へ参加を基本がわかる！ 具体的にわかる！

- ・日時 1月6日(水)～8日(金)
- ・会場 北海道立道民活動センター (かでの2・7) 他
- ・講演 「これからの読書活動と学校図書館の在り方」  
文部科学省初等中等教育局教育課程課  
教科調査官 杉本 直美 氏
- ・講義・実習・討議・交流の充実した3日間  
※詳しくは案内要項またはHPでご確認ください。

### ◆第43回中学生作文コンクール審査終了

各地区からの作品応募、審査協力ありがとうございます。各地区からの作品応募、審査協力ありがとうございます。「わたしのいちばん」のテーマで2万点を越える多くの作品が寄せられました。生徒数が減少する中で、前年度の応募数をわずかながら上回りました。引き続き、参加校数の拡大と応募数の増加を期待します。

**中央表彰式** 1月5日(火) 13:00～15:00  
北洋大通センター4F セミナーホール

- 日胆地区：1月7日(木)室蘭市
- 道南地区：1月8日(金)函館市
- 道東地区：1月12日(火)釧路市
- 道北地区：1月13日(水)旭川市

### ◆第46回学校図書館賞にご応募を！

本賞は次の3区分。応募期間は各部とも2016年2月29日(当日消印有効)＜詳しくは全国SLAのHPをご覧ください＞

#### **運動の部** (学校図書館運動の推進)

- ・学校図書館運動(読書運動を含む)を積極的に推進し、全県、あるいは地域の学校図書館を著しく振興させた業績を顕彰します。

#### **論文の部** (学校図書館に関する著作・論文)

- ・学校図書館(読書指導を含む)について体系的にまとめた著作・論文(博士・修士の学位請求論文は除く)で2015年3月1日以降に完成したもの。学校図書館研究および実践の発展に貢献した業績を顕彰します。

#### **実践の部** (学校図書館の実践活動)

- ・学校図書館の経営・運営、読書指導、情報活用能力の育成指導、読書推進活動などにおいて卓越した実践を展開し、学校図書館または子どもの読書の発展に貢献した業績を顕彰します。

## 事務局

事務局長 齋藤 昇一 (札幌市立藻岩中学校校長)  
TEL 011-571-6039  
FAX 011-572-3333  
事務局校 札幌市立平和通小学校  
事務局次長 野村 邦重  
〒003-0027 札幌市白石区本通15丁目北3-1  
TEL 011-863-0235 FAX 011-863-0265

## Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用ください。

### キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15  
TEL (011) 857-3331  
FAX (011) 857-5211

### ◆『生きる 劉連仁の物語』

2015年7月出版  
(童心社) 1600円+税

劉連(りゅうりえん)仁(れん)氏は、太平洋戦争中に日本に強制連行され、苛酷な炭鉱労働から逃亡した。そして北海道の山中で一人、13年間終戦を知らずに生き抜き、当別町の山中で見られた。過酷を極めた労働に加えて日常的な暴力を受けたことから脱走し、山野を逃げ続け生き延びたのである。函館在住の児童文学作家、森越智子さんがその彼を主人公とし、児童書として出版したものです。このような事実を、混迷を極める現代社会の今を生きる、多くの子ども達に伝えたいという思いが、強く伝わってくる一冊です。



## 編集後記

今年も残すところ1か月、突然の大雪に驚かれたり、お忙しい毎日が続いていることでしょう。本号は第61回青少年読書感想文全道コンクールの特集号です。全道各地から届いた読書感想文を読むことで、児童生徒の確かで豊かな本との出会いが感じられ、とても喜ばしく思います。日々ご指導に当たられている皆様のご尽力に敬意を表したいと思います。来年もより多くの子どもたちの読書感想文コンクールへの参加がありますことを祈念しています。

(編集：杉本 操 村山 知成 野村 邦重)  
大久保雅人 齋藤 昇一

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>